

学年 第3学年

時間 1時間

題材 抽象的な彫刻作品

- S D 8 ジャン・アルプ作「目覚め」1938年制作(1983年鑄造)
- S B 3 バーバラ・ヘップワース作「Nesting Stones」1937年制作
- S D 11 イサム・ノグチ作「追想」1944年制作(1983-84年鑄造)
- S D 15 ヘンリー・ムーア作「弦のある形」1939年制作
- S G 3 アンリ・ローランス作「イヤリングをつけた女の顔」1921年制作

題材について

中学生の作品展などを見に行くと高麗石など篆刻の印材でつくった印鑑の作品をよく目にする。鈕(つまみ)の部分はそれぞれ工夫を凝らした小さな彫刻で飾られている。つやを帯びるまで磨かれたその作品から一生懸命制作に取り組む生徒の姿が想像できる。形は人物や動物などをモチーフにしたものから抽象的な形まで様々であるが、小さくて柔らかくもろい石材に彫刻すると、仕上げにサンドペーパーなどで磨くために細い部分を作ったり、こまかなエッジを持ったりしたものは向かない。

中国の印などには龍や獅子などが細かく彫刻されたものがよくあるが、彫刻部分は上の方に小さくあって印として使用するものの装飾の一部という印象が強い。それに対して中学生の作品は印として使用もできるが全体が小さな彫刻作品という性格が強く、制作においてもそうした部分に重点が置かれていると思う。

実際に生徒に制作させてみると考えている立体を作るためにどこからどのように削っていたら良いかわからず、とまどいながらも、四角い棒からだんだんと形が現れはじめると服が粉で真っ白になるのもいとわずに削り、仕上げは指で何度も肌触りを確かめながら夢中になって磨いている。時間をかけて作り上げた作品には大きな愛着を持つようである。

美術館に行くと思わずなどでみたくなるような作品に出会うことがある。多くは抽象的な彫刻作品で、じっくり見ているといろいろな形や感情が浮かんできて楽しい。

印材での彫刻制作の導入としてこのような作品を鑑賞して行くと生徒たちも形に対してのイメージがふくらんでくるのではないかと考えた。

指導要領との関連

[第2学年及び第3学年] 2内容 A表現 ア、イ、ウ B鑑賞 ア、エ、オ

目標

- ・アルプの作品を鑑賞し形の美しさを味わう。
- ・作品からイメージされるものを想像し、抽象表現が見るものに様々なイメージを持たせることを知る。
- ・自分のテーマから想像をふくらませて形を考えていくことができるようにする。

学習展開

学習活動(予想される生徒の反応)	学習内容	指導上の留意点
アルプの作品の図版を鑑賞する。 それぞれの作品からなにをイメージするか、グループで協議して発表する。 抽象的な作品が見る人によって様々なイメージにとらえられることを知る。 その他の抽象、半抽象的な彫刻作品の図版を鑑賞する。	一つの作品から様々な見方をした意見が出るのが望ましい。 ワークシートのアルプの作品スケッチ	作品をじっくり鑑賞して、イメージされるものをいろいろと考え、グループで意見交流できているか。

<p>作品の簡単なスケッチと作者、タイトルをワークシートに書いて、感想を書く。 作家の個性的な表現、多用な表現があることに気付く。 自分のテーマを決めて、エスキースを描く。</p>	<p>子を参考にして、短時間で簡単にスケッチをさせる。 鑑賞した作品にとらわれず自由な発想でエスキースを描くことができるように留意する。</p>	<p>作品の形を簡単にスケッチすることができるか。 鑑賞した作品の感想を簡潔にまとめて書くことができるか。 自由な発想で自分が作ろうとする作品のイメージを描くことができたか。</p>
--	---	---

準備物

- ・作品の写真図版
- ・ワークシート

<p>参考文献・資料 広島県立美術館コレクション選 広島県立美術館 1996年 広島県立美術館ワークシート「ネ스팅・ストーンズ」 「目覚め」 「追想」 20世紀美術の誕生展図録 広島県立美術館 1996年</p>

鑑賞ワークシート

黒板に掲示された図版をよく見て、次のそれぞれの作品からイメージされるものをグループで話し合って書こう(上のらん)。下のらんには題名を記入。

			
アダム以前の果実	影の彫像	目覚め	鉢の上の小さなキマイラ

上の作品の作者

ジャン(ハンス)・アルプ 1887 1966
ドイツで生まれる。画家、彫刻家、詩人でもある。

他の作品のスケッチと作者、題名

感想

平成 年 月 日 () 曜日

第 学年 組 番 氏名